



丁巳暮

耳喉笑

防岩田

中より紅かきや的乃旦于支
 みとく毒つる竹くのり松
 之をり建物の幸及嘸くも
 かんきい美乃ひくくちう家
 新鷹乃毛路もまこ于ぬ芝の月
 啼をさそをかたはる次つき
 物なれ枝を考ある少層物
 けあきくしむ妙也乃辰
 信洲しりあそれ山の峯は松
 翠を抱て世を志のふ竹
 手比乃娘あきとも娘乃もた
 折出乃櫃と人乃梓未
 素所る油メ木の音言く
 土屋取けも森入端く
 如しき白狐乃姿取しと
 存の中よりの掃月

而曉
 肘挫
 皓月
 一嘆
 既白
 一止
 柳宇
 柳鳥
 其翠
 可恥
 柳枝
 嘖
 托
 月
 嘆
 止





花乃きく彼存も色き詠き
少壯蒙白く眠る去る由 白 夏

きまきと落き楸乃蕨ふか
若竹や花乃くまも條ぬそ
久きまの女の口さや去る風
沈き中や介の事な実ふち
予さるもまて後ふち川柳花
擁おや風名為辰のせし連
橋乃ら下流まらちる小舟英
更中 子たを船乃大や夕三
何さあふちもさあふち伊花
せうくと田際のもさ温ふか
一止 易曉

自後

若ききといまなめさむカス 夢言

多中なほ千の欄や山橋 不夜坊
り人乃おあささ 櫻ふか 妙高

花信

丁巳去

防 夢言

若竹や水よまぬゆあり 彼 有太
雪乃ゆゆゆ 山乃ゆゆ 他月
若葉ふとく九夜のみきゆて 吐葉
きくくの果さゆの廣香 一身
湧出るまきあちし月夜の月 仕儀
大工の辰まき生りぬ 桜花
橋乃らちまらちる古き花梅 柳月
ちみちゆゆゆゆ 糖りき 漢月
ちみちゆゆゆゆゆゆのゆゆゆ 五雲
ちみちゆゆゆゆゆゆゆゆ 月雲
若き若き先二八より五人 一
島田 櫻ふか 君さすまら 依
園 ちみちゆゆゆゆゆゆゆ 花
花信 ちみちゆゆゆゆゆゆゆ 風



何事もなほ杖さすたふては 馬曉
花をを花さすくやうく 杖 一止
葉の花や花橋かゝる木やう舞 泣
去く花や葉をさすれぬ雪をさ 憂
あかやあまさを候ききき 有右
雪うたほわくはうく可き 爲笑
春の雪は梅戸もくや後月 巴月
自然の蔓披んく枝せく 指井
苗代乃きあまそくくく 新心
あかりも山う新くく 柳う都 優余
子殿も別て枝ゆく 小あひ 文殊
並ね乃 裾を降くく 鹿う家 柳を
梅咲やたむの通ふく 不及坊

雪や舟を柳をく 日和 會指
一いつく 常ぬまや 糸柳 燕子
橋留

巴乃去 用八代

五寸ちくあも花さく葉種か 地為
去をぬくく 枝乃くう 柳 契々
一日乃くさ志負あくと貝 鳥經
阿まをぬくく 木のふふ 如月
大軍乃 花候を降く 暮の月 松屋
去のちり 柳昇位のみ 里松
次く 花月う 門をすたき 花友
白熊子て 形れを睡子 一苗
ゆ中もせんよ け候あまき 松系
あ甘乃 葉をさす 神あ 一勢
海さき 別ては 花のねん 丑曉
花大うすく 花の井さ 種
櫻花 一す 秋の月も 花あ 々
花後も 花候も 花あ 々

儂くろ花乃原速の上高舟 院
せうりくく好風乃ま柳 梨

逢ふ乃若ぬるまき然んか 藤花
まを紐やりもをあて 海造 如月
ふれおんおすはまぬまりか 松葉
仁の舞いほの原ふ二月より 可也
きふさや花を離て標の君 ち友
御月くく匠齋の生川耕由 松露
新ち標のたあしてたる松 一奴力
并柳よ葉のちりる 梅葉ふふ 一番
舟了来て舟よるきむは下ふ 里焼
標の葉くく一たふくあるちまふ 葉々

町るくく白ああり 鐘月 會指
糖は下

丁巳春 周花丘

又水若土周忌

長くまきりまきもや花梅子 曲高
風を信る海吹のこま之屋 貝柳
如世くたのよ戸は月まき 葉青
標の海乃葉を足するま喰 禹標
はまの拍子木あは標の月 松侯
声くたまきく標の傳く 汀壁
望人乃柳遠くくま之折 茶葉
ふりくく下る標の軽業 花露
致き降乃はま干中か標 五丸
毛相田は子苗はふ三方 貝友
星新くおも冷きおあけ 貝窓
形はる古しを網代木 梅南
かんたは標の思乃狗の内 青
言くく標くあは儉約 棟
持葉金くく如字くくはあ 礎

南季

出てんまもな乃来てお梅も
 有梅
 阿もなき嫩澄出さ梅乃中
 梅二
 櫻山や宮またくよ中一川
 梅枝
 とは新も出るま〜と撞月
 舟
 服の是もさゆか存か陸も
 李枝
 後〜と初を片も梅う丸
 此々
 侯栗乃余番も初も春の鳥
 菴約
 依れ出るあ乃泡も胡蝶
 菴黠

遠伊も海を故友と對す

勢もく〜舟く〜似てお梅も
ささ鹿

人乃さる正月もせき〜男
新鹿

梅乃

乙卯秋

月下後地

里破右左善

西風乃便や蓮乃実の時
又有

子〜〜乱〜〜さ波の月
和月

言なきを想を合はれを起て
新鹿

手も〜〜つ〜〜い〜〜も〜〜も
花乃

程も〜〜も〜〜も〜〜も
玉乃

日國程も〜〜も〜〜も
仙露

先生乃意も〜〜も〜〜も
平海

花乃ち〜〜も〜〜も乃あめ
李乃

陽をの世をい少町の秋らさ
政東

夜さ〜〜も〜〜も乃乃時
有

去ん〜〜も〜〜も乃乃弟度
有

積る思乃〜〜も〜〜も乃日
海

尚書

秋のりやんあつせたり申と水 物院
 志ましくいゝの舟もつはき 里深
 夕風乃まさしおほく陰影 陸東
 秋のあまふ草鞋の舞 鹿の影 仙路
 夕のくも月の桂やおほく花 花乃
 毛路の宿りしつゝ花の影 玉水
 街をよも山をよも鳥林の音 李青

牌

燈乃くも某のしめく 秋志これ 和月
 舟はさるおりの舟乃秋志 燈熟
 川を乃依りしつゝ 一夜もふ 新子
 燈房

巳乃去

防山

丙丁童子東東大

日ささく其乃と去りあ特に 童化坊
 あまれくき世に秋乃陰雪 新子
 下帯一漂及そ水く画ききて 耕文
 二底ぬく梅の月影の影 巴水
 秋乃乃秋をみまふくちてし 言水
 言白を化新ふ屋乃依衣 樹史
 夕代は糊をぬけしも村はく 梅止
 玄圃にようは暑気のはえ霧 霧胡
 丸呑りくちまぬちたふ雲風 芝扇
 盗人あれを指を指さぬ 赤芭
 花の乃第 伯おたきくお 波家
 巡り上使あまも更欣名 更友
 橋乃張るむ ちのり遠 文
 あみらまきまらむと月 扇

あつらん風き日枝の初嵐
阿の燕花乃師を刺る
再きくは嫁世果あつる

坊 史 友 子

此のて一入物乃るは借る
沢水乃は温もまきそ葉弁
山をくもあまうあはまき
さくくも葉を雪の紋る
筆をの骨おとあく日亦
新宅乃るきしりう梨乃花
青柳花みりうたきそ葉地
おろくも葉乃上る柳乃
出代やろも出てる舟使
多枝乃老木も仔まの白も
元能お枝より梅乃すもえ

耕舎

巴の

言水

新湖

梅止

梅史

沢原

青色

芝扇

及友

新子

巴書

石田丸

書海の滝

雪おま書するはき梅中
巴字の石魚
梅檀毛柘も二葉子名は志
やうい乃中一の圃う川
水寺乃位持るは巴極
小所却て吹きく
名月の笑をえをひる開
けらるるあつる毛乃龜
秋草う似るる子草の心味
天乃風をまる斜一
今やさく花のまひの初年
いやくあつる日の水さ
仕候くそ夜の後り川
徳候乃粒をの深は開合

妙高

去廻

ほろ

雪木

二仙

留牙

礼睡

候月

文友

序友

巴磯

花雪

痕水

里梅

